

## アームダンパーの効果(7)

—ThorensTD124(4)—

### 1. 始めに

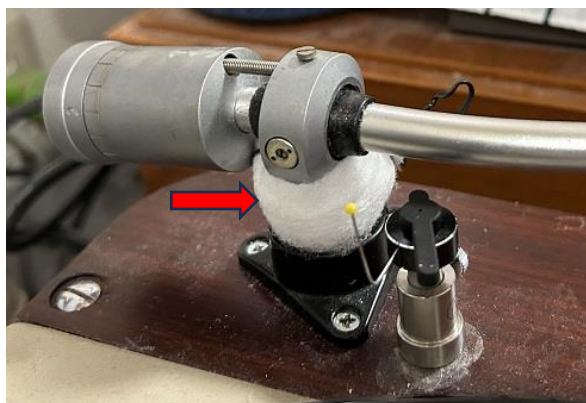
前報(1)、前報(4)および前報(6)の ThoresTD124 の RMG-212 での結果を受け、さらに他のアプローチをとってみます。

### 2. アームダンパーの試聴計画

システムは ThoresTD124 の RMG-212 を対象として、前報(1)の手芸用フェルト製アームダンパーを作り直してみます。前報(1)のものは使用している間に外れてきたりしますので、写真のようなかたちにしました。



また、同様にポリエステルウールを使用したものも作成しました。ポリエステルウールは、建築用材料で、断熱材や防音材として使用されるものです。



これらを RMG-212 の軸に巻きつけて縛って固定します。

音源は下記のオルガンが演奏される盤を使用し、スピーカーは重低音が伸びている 38cm ダブルウーファーの JBL4350A を使用します。これらの盤は、事前に CD ク

リーナーの処理を行います。ちなみに JBL4350A は、発振器と測定器を使用して F 特を測ったことがあります。20Hz 以下オルガンの最低域の 16Hz まで再生できることが分っています。

#### ARCHIV MA-5007

バッハ トッカータとフーガニ短調・ヘ長調  
ヘルムート・ヴァルヒャ (オルガン)

#### TELARC STEREO 10051

サンサーンス 交響曲 3 番「オルガン」  
ユージンオーマンディ指揮フィラデルフィア交響楽団  
ミカエル・マレイ (オルガン)

#### FONTANA PL-1023

リヒャルト・シュトラウス ツアラトウストラかく語りき  
ベルナルド・ハイティンク指揮アムステルダムコンセルトヘボウ

### 3. アームダンパーの試聴結果

最初に手芸用フェルトのアームダンパーを RMG-212 に付け外ししながら聴いていきます。

バッハのトッカータとフーガニ短調は、アームダンパーありなしで大きくは変わりませんが、アームダンパーありで全体に音がクリアになり、一音一音がくっきりと聴かれます。

サンサーンスの交響曲 3 番「オルガン」は、終章でオルガンと低弦とグランカッサとチューバなどが入り乱れて演奏されますが、アームダンパーありで、それぞれが明瞭になり、受け渡しや分離が分かりやすくなります。

リヒャルト・シュトラウスのツアラトウストラかく語りきは、アームダンパーなしだと冒頭のオルガンの重低音の持続音がゆらゆらと揺らいでいたのが、アームダンパーありで揺らぎが軽減され、グランカッサの連打も明瞭になり、金管の咆哮の迫力がでてきます。冒頭のオルガンの重低音の持続音は部屋中がゆさぶられるようになります。ちなみにアームダンパーを外しますと、冒頭のオルガンの重低音の持続音の揺らぎが元にもどります。

次にポリエステルウールのアームダンパーを RMG-212 に付け外ししながら聴いていきます。

バッハのトッカータとフーガニ短調は、アームダンパーありなしでほとんど差はありません。

サンサーンスの交響曲 3 番「オルガン」も、アームダンパーありなしでほとんど差はありません。

リヒャルト・シュトラウスのツアラトウストラかく語りきは、アームダンパーあり

なしでほとんど差はなく、アームダンパーありでも、冒頭のオルガンの重低音の持続音の揺らぎも残ります。

以上、フェルトのアームダンパーの方は効果がありましたが、ポリエステルウールのアームダンパーは効果がありませんでした。このものは、弾力性はありますが、かなりふわふわした柔らかいものです。前報(4)の研磨用フェルトの場合が硬すぎて音を抑制するようなところがあったことから、適度な硬さと弾力性素材がアームダンパーの素材として要求されるということになります。

今回の結果から、当面、今回作成した手芸用フェルトを巻き付けるアームダンパーを使用していきます。

#### 4. まとめ

手芸用のフェルトを切り抜いたアームダンパーは ThoresTD124 の RMG-212 にセットし効果を認めましたが、ポリエステルウールを切り抜いたアームダンパーは効果を認めませんでした。

以上

#### 【追記】

ツアラトウストラかく語りきの冒頭の揺らぎの原因は、録音環境の定在波、振幅の大きい音溝のトレース、盤の偏心などが考えられます。

そこで同じ曲の盤に替えてみました。

#### EXTON OVJL-100001

リヒヤルト・シュトラウス ツアラトウストラかく語りき

エド・デ・ワールト指揮オランダ放送フィルハーモニー

この盤では、フェルトのアームダンパーありでも、なしでも音の揺らぎはありません。そこで上記の FONTANA 盤に戻して再度確認すると、やはりフェルトのアームダンパーなしの揺らぎが、フェルトのアームダンパーありの揺らぎより大きいことが分ります。ヘッシエルの動きをよく見ると、左右の振れがあり、盤の偏心があることが分りました。つまり、盤の偏心が音の揺らぎの原因であり、アームダンパーはそのような揺らぎを軽減しているのではないかということになります。